

Sun Ray Software  
リリース 5.4 用リリースノート

**ORACLE®**

E40128-01  
2013 年 5 月

---

# Sun Ray Software: リリース 5.4 用リリースノート

Copyright (C) 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアはさまざまな情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

Oracle Virtual Desktop Client ソフトウェアは、Oracle Software Delivery Cloud (<https://edelivery.oracle.com>) から個別にダウンロードする必要のある Oracle の Sun Ray Software および Oracle Virtual Desktop Infrastructure ソフトウェア製品に含まれているコンポーネントです。Oracle Virtual Desktop Client の使用は、Sun Ray Software および Oracle Virtual Desktop Infrastructure に付属するかそれらに適用される Oracle ソフトウェアライセンス契約に従います。

## 概要

このドキュメントでは、Sun Ray Software 5.4 リリースの新機能、変更点、および既知の問題について説明します。

ドキュメント生成日: 2013-05-08 (revision: 2374)

---

# 目次

はじめに .....	v
1. Sun Ray Software 5.4 リリース .....	1
1.1. Sun Ray Software 5.4 の新機能 .....	1
1.1.1. プラットフォームサポート .....	1
1.1.2. リモートデスクトップ .....	1
1.1.3. マルチメディア .....	1
1.1.4. スマートカードサービス .....	2
1.1.5. ユーザーエクスペリエンス .....	2
1.1.6. セキュリティー .....	2
1.1.7. 監視 .....	3
1.2. システム要件 .....	3
1.3. 前のリリースからの変更点 .....	3
2. Sun Ray Software 5.4 の既知の問題 .....	5
2.1. パフォーマンスの更新 .....	6
2.2. IPsec でのパフォーマンス .....	7
2.3. インストールの問題 .....	7
2.3.1. アップグレード後に DHCP サービスが再起動されない .....	7
2.3.2. アップグレード中に <code>utpresave</code> が <code>utwc</code> (Windows Connector) グループを復元しない .....	7
2.4. 管理 GUI の問題 .....	8
2.4.1. 自己登録 GUI .....	8
2.4.2. 複数認証 (Oracle Solaris) .....	8
2.5. セッションの問題 .....	8
2.5.1. IPv6 を使用する場合にセッションアクセスが非常に遅い (Oracle Solaris 11) .....	8
2.6. ログインの問題 .....	8
2.6.1. タブレットの回転後、ログイングリタが中央に配置されない .....	8
2.6.2. クイックログインメニューが NSCM ログイングリタで動作しない (Oracle Solaris 11) .....	8
2.6.3. <code>dtlogin</code> 画面で「リストからホストを選択」オプションからリモートホスト名を選択すると、Sun Ray クライアントが 26D でハングアップする .....	8
2.7. 画面の問題 .....	9
2.7.1. モニターが DVI-2 に接続されているときに、Sun Ray セッションが デフォルト表示である 640 x 480 を使用する .....	9
2.7.2. 動的なセッションサイズ変更が有効になっているときにホットデスク後 GNOME がクラッシュする場合がある (Oracle Linux 5) .....	9
2.7.3. Sun Ray 3 および Sun Ray 3i クライアントで構成 GUI を表示しているときに画面がちらつく .....	9
2.7.4. 2 つ目の Oracle Linux セッションで画面がロックしない .....	9
2.8. マルチメディアの問題 .....	9
2.8.1. H.264 ビデオを再生中の Windows Media Player を閉じると、Windows セッションがクラッシュする場合がある (Oracle Solaris) .....	9
2.8.2. Windows Media Player でビデオを再生しているときにデスクトップをリフレッシュすると、Windows デスクトップ背景が黒くなる場合がある .....	10
2.8.3. ビデオサイズを小さくすると、以前に設定した大きなビデオサイズのイメージ内でビデオ再生が開始される .....	10
2.8.4. RealPlayer レンダリング (Oracle Solaris) .....	10
2.8.5. 2 つの画面から 1 つの画面にホットデスクするときのビデオイメージの問題 .....	10
2.8.6. XVideo を使用した縮小 .....	10
2.8.7. VC-1 (WMV9) ビデオを Windows Media Player ではじめて再生しようとすると、再生されない場合がある .....	10
2.8.8. RealPlayer で最大化した XVideo のプレイバックが遅い .....	10
2.9. キーボードの問題 .....	11
2.9.1. <code>xset led</code> が有効になっているとき、キーボードのプラス "+" 記号が動作しない (Oracle Solaris 11) .....	11
2.9.2. NumLock がオンになっているとき、Shift-Props および Shift-Pause ホットキーが動作しない (Oracle Solaris 11 および Oracle Linux 6) .....	11
2.9.3. XKB (Oracle Linux) .....	11
2.9.4. テンキーマッピング (Oracle Linux) .....	11
2.9.5. キーボードの配列 (Oracle Linux) .....	11

2.10. キオスクの問題	11
2.10.1. キオスクアプリケーションタイプを正しく設定する	11
2.11. 外部ストレージの問題	12
2.11.1. Memorex TravelDrive 1G バイト が Sun Ray 2FS クライアント上で動作しない	12
2.12. Oracle Solaris Trusted Extensions の問題	12
2.12.1. ActivClient ユーティリティーを起動したあと、Windows Connector が X_WarpPointer 工 ラーで終了する (Oracle Solaris 11)	12
2.12.2. admin_high/admin_low 許可のないユーザーがログインに失敗する (Oracle Solaris 11)	12
2.12.3. Sun Ray インターコネクト構成	12
2.12.4. マルチヘッド役割引き受け	12
2.12.5. フラッシュディスク割り当て	12
2.12.6. 複数のスライス/パーティション	13
2.12.7. xscreensaver リンク (Oracle Solaris 10)	13
2.13. ローカリゼーションの問題	13
2.13.1. ポルトガル語のロケールがインストールされない (Oracle Solaris 10 および Oracle Linux)	13
2.13.2. nl_NL オランダ語ロケールサポートがデフォルトで提供されない (Oracle Solaris 11)	13
2.13.3. utselect GUI でローカライズされたテキストが正しく表示されない (Oracle Solaris 11)	13
2.13.4. utselect および utwall (Oracle Linux)	14
2.14. VMware View Connector の問題	14
2.14.1. ネットワークレベル認証 (NLA) を使用して Windows 7 を起動すると VDM ログイン画面で 認証に失敗する	14
2.15. スマートカードの問題	14
2.15.1. Sun Ray Operating Software のインストール時にスマートカード LED が約 40 秒間点滅す る	14
2.16. Windows Connector の問題	14
2.16.1. ホットデスク中に Windows Server 2003 R2 デスクトップが自動的にサイズ変更されるとセ グメント例外が発生する	14
2.16.2. USB リダイレクション機能のトラブルシューティングに使用される utrace コマンドが機能 しない	15
2.16.3. Windows 7 および Windows Server 2008 R2 システムへの接続時に、Windows Connector が Windows 開始画面でハングアップする場合がある	15
2.16.4. Windows 7 でテーマが有効になっているときに色勾配が正しく表示されない	15
2.16.5. XRender が無効のときに Windows Server 2008 R2 セッションで黒いマウスカーソルが表示 される	15
2.16.6. スキャナボタンを使用してもスキャンが動作しない	15
2.16.7. フラッシュディスクの挿入後にエクスプローラウィンドウが自動的に起動しない	16
2.16.8. スマートカードが Windows ターミナルサーバーでユーザーを認証できない	16
2.16.9. 既知の Oracle Linux 制限が原因で、Windows から PCFS フォーマットリムーバブルメデ ィアに大きなファイルをコピーすることが機能しない	16
3. フィードバックとサポート	17
3.1. 問題を報告してフィードバックを提供する	17
3.2. Oracle スペシャリストサポートに連絡する	17
A. 変更ログ	19
A.1. Sun Ray Software 5.4 のバグ修正	19
A.2. Sun Ray Operating Software 11.1.1 のバグ修正	21
B. Sun Ray Operating Software 11.1.1 リリース	23

---

## はじめに

このドキュメントでは、Sun Ray Software 5.4 製品について説明します。

### 対象読者

このドキュメントは、システム管理の経験を持つユーザーを対象にしています。また、読者が Web テクノロジの知識を豊富に持ち、Windows および UNIX プラットフォームの一般的な知識を持っていることを前提としています。

### ドキュメントのアクセシビリティについて

Oracle のアクセシビリティへの取り組みについては、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> にアクセスしてください。

### 関連ドキュメント

この製品のドキュメントの完全なセットについては、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.com/technetwork/jp/index.html/server-storage/sunrayproducts/docs>

ドキュメントセットには、次のマニュアルが含まれています。

- Sun Ray Software 5.4 管理ガイド
- Sun Ray Software 5.4 リリースノート
- Sun Ray Software 5.4 Security Guide
- Sun Ray Software 用 Oracle Enterprise Manager システム監視プラグインインストールガイド

### 表記規則

このドキュメントでは次の表記規則を使用します:

表記規則	意味
太字	太字は、操作に関連するグラフィカルユーザーインターフェース要素、または本文中や用語集に定義されている用語を示します。
イタリック	イタリックは、本のタイトルや強調、ユーザーが特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。
モノスペース	モノスペースは、段落内のコマンド、URL、サンプル内のコード、画面に表示されるテキスト、または入力するテキストを示します。



---

# 第1章 Sun Ray Software 5.4 リリース

## 目次

1.1. Sun Ray Software 5.4 の新機能 .....	1
1.1.1. プラットフォームサポート .....	1
1.1.2. リモートデスクトップ .....	1
1.1.3. マルチメディア .....	1
1.1.4. スマートカードサービス .....	2
1.1.5. ユーザーエクスペリエンス .....	2
1.1.6. セキュリティー .....	2
1.1.7. 監視 .....	3
1.2. システム要件 .....	3
1.3. 前のリリースからの変更点 .....	3

## 1.1. Sun Ray Software 5.4 の新機能

以降のセクションでは、Sun Ray Software 5.3 リリースからの主な変更点について説明します。これらの機能の多くでは、Sun Ray Operating Software 11.1.1 リリースが Sun Ray クライアントにインストールされている必要があります。詳細については、[付録B Sun Ray Operating Software 11.1.1 リリース](#)を参照してください。

### 1.1.1. プラットフォームサポート

Sun Ray サーバーでは、現在、次のオペレーティングシステムがサポートされています。詳細については、[製品要件](#)を参照してください。

- Oracle Linux 5.8
- Oracle Linux 6.3
- Oracle Solaris 10 8/11 以降
- Oracle Solaris 10 8/11 以降、Trusted Extensions を統合
- Oracle Solaris 11.1

`utpkgcheck` コマンドは、Oracle Linux および Oracle Solaris 11 の両方に対して必要なパッケージのインストールを支援するように更新されました。

### 1.1.2. リモートデスクトップ

次のリモートデスクトップが、Sun Ray Software でこれまでにサポートされていたデスクトップに追加されました。

- Windows 8
- Windows Server 2012

サポートされていたリモートデスクトップおよび機能の完全なリストについては、[製品要件](#)を参照してください。ビデオの高速化およびスマートカードサービス機能は、Windows 8 および Windows Server 2012 ではサポートされません。

### 1.1.3. マルチメディア

- Windows 7 および Windows Server 2008 R2 でのビデオプレイバックが改善

Sun Ray 3 シリーズクライアントでは、Windows 7 および Windows Server 2008 R2 デスクトップを使用する場合の Windows Media Player を使用したビデオプレイバックが改善されています。改善には、MPEG-2、H.264、および VC-1 ビデオ形式での最大 720p ビデオのサポートが含まれます。詳細については、[管理ガイドのビデオの高速化](#)を参照してください。

## 1.1.4. スマートカードサービス

- スマートカードデバイス (Oracle Linux 用)

Oracle Linux を実行している Sun Ray サーバーでデスクトップクライアント用のスマートカードサービスを利用できるようになりました。スマートカード認証などのスマートカードサービスは、PC/SC-lite API を使用して提供されます。CCID IFD ハンドラ (デスクトップクライアントに接続された CCID 準拠の外付け USB スマートカードリーダーにアクセスできるようにするもの) は、Oracle Linux が動作している Sun Ray サーバーではサポートされません。詳細については、管理ガイドの[スマートカードサービス](#)を参照してください。

- 外部 USB スマートカードリーダーによる Windows 認証

Windows Connector を使用する場合、外部 CCID 準拠 USB スマートカードリーダーは、`uttsc` コマンドの `-r scard:on` を使用するとき Windows RDP スマートカードチャンネルを経由してリダイレクトされるようになりました。これにより、外部 CCID 準拠 USB スマートカードリーダーによる Windows 認証が可能になります。詳細については、管理ガイドの[スマートカードサービス](#)を参照してください。

## 1.1.5. ユーザーエクスペリエンス

- Oracle Solaris 11 および Oracle Linux 6 での PulseAudio 経由でのオーディオ出力

PulseAudio サウンドサーバーは、Oracle Solaris 11 および Oracle Linux 6 Sun Ray サーバーを使用する場合にデスクトップクライアントセッションのオーディオ出力を提供するために使用されます。詳細については、管理ガイドの[オーディオ出力トラブルシューティング \(Oracle Solaris 11 および Oracle Linux 6\)](#)を参照してください。

- 動的なセッションサイズ変更

セッションの動的サイズ変更を使用すると、ローカルのデスクトップクライアントセッションのサイズに合わせてリモートデスクトップのサイズを自動的に変更できます。セッションの存続期間中の動的なセッションサイズ変更をより適切に実現するために、`utscresize` コマンドの `-l` オプションが追加されました。動的なセッションサイズ変更は Oracle Virtual Desktop Client でも拡張されており、ウィンドウモード中にタブレットを回転したりウィンドウをサイズ変更したりしたあとで、新しい画面構成を自動的に検出し、それによってリモートデスクトップをサイズ変更します。詳細については、管理ガイドの[セッションの動的サイズ変更](#)を参照してください。

- Sun Ray クライアントの画面回転

Sun Ray クライアントのファームウェアを、モニターの方向 (たとえば、縦か横か) を指定するように構成できるようになりました。この方向の構成は、さまざまな画面構成コマンドによって使用され、適切な画面方向をユーザーに自動的に提供するのに役立ちます。詳細については、[画面の回転を構成する方法](#)を参照してください。

- モニターモードの正確な一覧表示

`xrandr` コマンドを使用してモニター情報を表示する場合、モニターでサポートされているサイズのみが表示され、マルチヘッドグループ内のセカンダリヘッドに関する情報は正確です。

- Sun Ray Software 管理 GUI のオランダ語のロケール

オランダ語のロケールが管理 GUI で利用可能になりました。また、管理 GUI のすべてのロケールが、Sun Ray Software インストール中に Sun Ray サーバーに自動的にインストールされます。

- 特定のタッチ画面ディスプレイが現在 Sun Ray 3 クライアントおよび Sun Ray 3 Plus クライアントで動作する

互換性のあるタッチ画面ディスプレイのリストとそれらを使用するための特定の要件については、[Sun Ray クライアントおよび Oracle Virtual Desktop Client の周辺機器に関するドキュメント](#)を参照してください。

## 1.1.6. セキュリティー

- Network Level Authentication (NLA) セキュリティー経由での Kerberos 認証

Windows Connector 経由で RDP クライアントにアクセスする場合、Kerberos 認証が Network Level Authentication (NLA) セキュリティー経由でのオプションになりました。詳細については、管理ガイドの[強化されたネットワークセキュリティ](#)を参照してください。



- IPsec によりネットワークセキュリティが改善

Sun Ray クライアントと Sun Ray サーバーとの間の IPv4 トラフィックセキュリティを改善するために、IPsec が提供されるようになりました。詳細については、管理ガイドの [IPsec サポート](#) を参照してください。

- Sun Ray Software のセキュリティガイド

Sun Ray Software 5.4 では、すべてのセキュリティ関連の情報を 1 か所で提供するために、個別の [セキュリティガイド](#) が用意されています。

### 1.1.7. 監視

- Oracle Enterprise Manager Cloud Control による Sun Ray Software 環境の監視

Enterprise Manager for Sun Ray Software を利用できるようになりました。これは、プラグインを通じて [Oracle Enterprise Manager Cloud Control](#) を拡張し、Sun Ray Software 環境の管理を支援します。Sun Ray Software のインフラストラクチャー、サービス、およびセッションのパフォーマンスおよび可用性をプロアクティブに監視することで、サービスレベルを改善させることができます。詳細については、「[Sun Ray Software 用 Oracle Enterprise Manager システム監視プラグインインストールガイド](#)」を参照してください。

## 1.2. システム要件

Sun Ray サーバーおよび Windows リモートデスクトップサポートのオペレーティングシステム要件を含めて、システム要件については管理ガイドの [製品要件](#) を参照してください。

## 1.3. 前のリリースからの変更点

前の Sun Ray Software リリースからの次のプラットフォームサポートおよび機能は、利用できなくなったか、変更されました。このリストは、このリリースで非推奨の機能も示しています。

- 32 ビット Oracle Linux は、Sun Ray サーバーでサポートされなくなりました。
- Oracle Linux 5.6 および Oracle Linux 5.7 は、Sun Ray サーバーでサポートされなくなりました。
- Oracle Solaris 10 9/10 は Sun Ray サーバーでサポートされなくなりました。
- スウェーデン語のロケールは、Sun Ray Software 管理 GUI で利用できなくなりました。
- スマートカードサービス機能は、TCP ポート 5999 の代わりに TCP ポート 4120 を使用するようになりました。
- `uttsc` コマンドについて、`-D` オプションが非推奨になり、`-B off` オプションに置き換えられました。
- `uttscwrap` コマンドを含む Java Desktop System (JDS) 統合パッケージは、非推奨になり、今後のリリースで削除される予定です。
- `scbus v1` スマートカードバスプロトコルは、非推奨になり、今後のリリースで削除される予定です。



## 第2章 Sun Ray Software 5.4 の既知の問題

### 目次

2.1. パフォーマンスの更新	6
2.2. IPsec でのパフォーマンス	7
2.3. インストールの問題	7
2.3.1. アップグレード後に DHCP サービスが再起動されない	7
2.3.2. アップグレード中に <code>utpresave</code> が <code>utwc</code> (Windows Connector) グループを復元しない	7
2.4. 管理 GUI の問題	8
2.4.1. 自己登録 GUI	8
2.4.2. 複数認証 (Oracle Solaris)	8
2.5. セッションの問題	8
2.5.1. IPv6 を使用する場合にセッションアクセスが非常に遅い (Oracle Solaris 11)	8
2.6. ログインの問題	8
2.6.1. タブレットの回転後、ログイングリタが中央に配置されない	8
2.6.2. クイックログインメニューが NSCM ログイングリタで動作しない (Oracle Solaris 11)	8
2.6.3. <code>dtlogin</code> 画面で「リストからホストを選択」オプションからリモートホスト名を選択すると、Sun Ray クライアントが 26D でハングアップする	8
2.7. 画面の問題	9
2.7.1. モニターが DVI-2 に接続されているときに、Sun Ray セッションが デフォルト表示である 640 x 480 を使用する	9
2.7.2. 動的なセッションサイズ変更が有効になっているときにホットデスク後 GNOME がクラッシュする 場合がある (Oracle Linux 5)	9
2.7.3. Sun Ray 3 および Sun Ray 3i クライアントで構成 GUI を表示しているときに画面がちらつく	9
2.7.4. 2 つ目の Oracle Linux セッションで画面がロックしない	9
2.8. マルチメディアの問題	9
2.8.1. H.264 ビデオを再生中の Windows Media Player を閉じると、Windows セッションがクラッシュする 場合がある (Oracle Solaris)	9
2.8.2. Windows Media Player でビデオを再生しているときにデスクトップをリフレッシュする と、Windows デスクトップ背景が黒くなる場合がある	10
2.8.3. ビデオサイズを小さくすると、以前に設定した大きなビデオサイズのイメージ内でビデオ再生が開 始される	10
2.8.4. RealPlayer レンダリング (Oracle Solaris)	10
2.8.5. 2 つの画面から 1 つの画面にホットデスクするときのビデオイメージの問題	10
2.8.6. XVideo を使用した縮小	10
2.8.7. VC-1 (WMV9) ビデオを Windows Media Player ではじめて再生しようとする、再生されない場合 がある	10
2.8.8. RealPlayer で最大化した XVideo のプレイバックが遅い	10
2.9. キーボードの問題	11
2.9.1. <code>xset led</code> が有効になっているとき、キーボードのプラス "+" 記号が動作しない (Oracle Solaris 11)	11
2.9.2. NumLock がオンになっているとき、Shift-Props および Shift-Pause ホットキーが動作しない (Oracle Solaris 11 および Oracle Linux 6)	11
2.9.3. XKB (Oracle Linux)	11
2.9.4. テンキーマッピング (Oracle Linux)	11
2.9.5. キーボードの配列 (Oracle Linux)	11
2.10. キオスクの問題	11
2.10.1. キオスクアプリケーションタイプを正しく設定する	11
2.11. 外部ストレージの問題	12
2.11.1. Memorex TravelDrive 1G バイト が Sun Ray 2FS クライアント上で動作しない	12
2.12. Oracle Solaris Trusted Extensions の問題	12
2.12.1. ActivClient ユーティリティを起動したあと、Windows Connector が <code>X_WarpPointer</code> エラーで終 了する (Oracle Solaris 11)	12
2.12.2. <code>admin_high/admin_low</code> 許可のないユーザーがログインに失敗する (Oracle Solaris 11)	12
2.12.3. Sun Ray インターコネクト構成	12
2.12.4. マルチヘッド役割引き受け	12
2.12.5. フラッシュディスク割り当て	12

2.12.6. 複数のスライス/パーティション .....	13
2.12.7. xscreensaver リンク (Oracle Solaris 10) .....	13
2.13. ローカリゼーションの問題 .....	13
2.13.1. ポルトガル語のロケールがインストールされない (Oracle Solaris 10 および Oracle Linux) .....	13
2.13.2. nl_NL オランダ語ロケールサポートがデフォルトで提供されない (Oracle Solaris 11) .....	13
2.13.3. utselect GUI でローカライズされたテキストが正しく表示されない (Oracle Solaris 11) .....	13
2.13.4. utselect および utwall (Oracle Linux) .....	14
2.14. VMware View Connector の問題 .....	14
2.14.1. ネットワークレベル認証 (NLA) を使用して Windows 7 を起動すると VDM ログイン画面で認証に失敗する .....	14
2.15. スマートカードの問題 .....	14
2.15.1. Sun Ray Operating Software のインストール時にスマートカード LED が約 40 秒間点滅する .....	14
2.16. Windows Connector の問題 .....	14
2.16.1. ホットデスク中に Windows Server 2003 R2 デスクトップが自動的にサイズ変更されるとセグメント例外が発生する .....	14
2.16.2. USB リダイレクション機能のトラブルシューティングに使用される uttrace コマンドが機能しない .....	15
2.16.3. Windows 7 および Windows Server 2008 R2 システムへの接続時に、Windows Connector が Windows 開始画面でハングアップする可能性がある .....	15
2.16.4. Windows 7 でテーマが有効になっているときに色勾配が正しく表示されない .....	15
2.16.5. XRender が無効のときに Windows Server 2008 R2 セッションで黒いマウスカーソルが表示される .....	15
2.16.6. スキャナボタンを使用してもスキャンが動作しない .....	15
2.16.7. フラッシュディスクの挿入後にエクスプローラウィンドウが自動的に起動しない .....	16
2.16.8. スマートカードが Windows ターミナルサーバーでユーザーを認証できない .....	16
2.16.9. 既知の Oracle Linux 制限が原因で、Windows から PCFS フォーマットリムーバブルメディアに大きなファイルをコピーすることが機能しない .....	16

ここでは、最新の既知の問題およびその他の問題、および適切な回避方法がある場合はそれらも一覧表示します。

## 2.1. パフォーマンスの更新

Oracle Linux 6 および Oracle Solaris 11 システム上の多数のセッション (サーバーあたりの同時セッション数が 80 を超える) のスケーラビリティに影響を及ぼす既知の問題がいくつかあります。これらの制限は、デフォルト構成およびシステムの Dbus プロセスと gdm プロセスで構成されている少ないファイル記述子リソース容量の結果です。次の回避方法を適用してスケーラビリティを拡張できます。

### Oracle Linux 6

1. Sun Ray サーバーのスーパーユーザーになります。
2. 次の行を含む `/etc/dbus-1/system-local.conf` ファイルを作成することで、デフォルトの Dbus リソース制限を変更します。

```
<!DOCTYPE busconfig PUBLIC "-//freedesktop//DTD D-Bus Bus Configuration 1.0//EN"
"http://www.freedesktop.org/standards/dbus/1.0/busconfig.dtd">
<busconfig>
<!-- default for this is 2048 -->
<limit name="max_completed_connections">32768</limit>
<!-- default for this is 256 -->
<limit name="max_connections_per_user">4096</limit>
</busconfig>
```

3. 変更を有効にするには、システムをリブートします。

### Oracle Solaris 11

1. Sun Ray サーバーのスーパーユーザーになります。
2. 次の行を含む `/etc/dbus-1/system-local.conf` ファイルを作成することで、デフォルトの Dbus リソース制限を変更します。

```
<!DOCTYPE busconfig PUBLIC "-//freedesktop//DTD D-Bus Bus Configuration 1.0//EN"
```

```
"http://www.freedesktop.org/standards/dbus/1.0/busconfig.dtd">
<busconfig>
<!-- default for this is 2048 -->
<limit name="max_completed_connections">32768</limit>
<!-- default for this is 256 -->
<limit name="max_connections_per_user">4096</limit>
</busconfig>
```

3. `plimit` コマンドを `/etc/init.d/utsyscfg` ファイルに追加することで、システムの DBus デーモンファイル記述子リソース容量を変更します。

行 `start` (行 320) のあとに、次の行を追加します。

```
if [ -x /bin/plimit ]; then
DPID=$(pgrep -f "dbus-daemon --system")
if [ -n "$DPID" ]; then
plimit -n 16384 $DPID
fi
fi
```

4. `/lib/svc/method/svc-gdm` ファイル内の行を置き換えることで、システムの `gdm` プロセスが Solaris Extended File Facility を使用するよう強制します。

行 `/usr/sbin/gdm $arg &` を次の 2 行に置き換えます。

```
ulimit -n 16384
LD_PRELOAD_32=/usr/lib/extendedFILE.so.1 /usr/sbin/gdm $arg &
```

5. 変更を有効にするには、システムをリブートします。

## 2.2. IPsec でのパフォーマンス

Sun Ray クライアントで IPsec を有効にした場合、サーバーとクライアントの両方での IPsec の処理要件の増加により、標準の Sun Ray Software パフォーマンスは影響を受ける可能性があります。パフォーマンスへの影響の原因としては、サーバーハードウェア、サーバーハードウェアでの暗号化の高速化、Sun Ray クライアントの選択、ユーザーアクティビティーなど、多数の要因が考えられます。通常、マルチメディアのパフォーマンスが影響を受けます。これには、Adobe Flash コンテンツの再生や Windows Media Player を使用したビデオの再生が含まれます。

詳細については、管理ガイドの [IPsec サポート](#) を参照してください。

## 2.3. インストールの問題

### 2.3.1. アップグレード後に DHCP サービスが再起動されない

`utpreserve` スクリプトが Sun Ray Software のアップグレード中に `dhcpcd` サービスを停止し、アップグレードの終了後に Sun Ray サーバーでこのサービスが再起動されません。この問題は、DHCP サービスを提供する Sun Ray サーバーにのみ影響します。

回避方法 アップグレード後に Sun Ray サーバーで DHCP サービスを手動で起動します。

参照: CR 16050120

### 2.3.2. アップグレード中に `utpreserve` が `utwc` (Windows Connector) グループを復元しない

(オペレーティングシステムのアップグレードのため) `utpreserve` スクリプトを使用してアップグレード中に Sun Ray サーバー構成をバックアップおよび復元する場合、`utwc` グループがバックアップおよび復元されません。`utsetup` スクリプトは、アップグレードを完了するために、サーバー上の `utwc` グループを必要とします。利用できない場合、次のエラーが表示されます。無効なグループ名: `utwc`。既存のグループ名を指定してください。

回避方法: `utsetup` スクリプトを使用して Sun Ray サーバーをアップグレードする前に、Sun Ray サーバーで `utwc` グループを作成する必要があります。Oracle Linux でのコマンド例を次に示します。

```
# groupadd utwc
```

参照: CR 14763147

## 2.4. 管理 GUI の問題

### 2.4.1. 自己登録 GUI

間違ったユーザー名またはパスワードが入力された場合、自己登録 GUI がテキストの入力を拒否します。

回避方法: 「終了」 ボタンを押して自己登録 GUI を再起動します。

自己登録 GUI を使用すると Java コアダンプが出力される場合がありますが、登録は引き続き予期したとおりに機能し、ほかの悪影響が見られません。ただし、`coreadm` がコアダンプに一意の名前を付けるように構成されている場合は、ディスクスペースの使用率が監視されるはずでず。

参照: CR 12195258、12196361

### 2.4.2. 複数認証 (Oracle Solaris)

ホットキー操作 (デフォルトは Shift-Pause) を使用してセッションが切断されるときに、複数認証を求められる場合があります。

参照: CR 12249130

## 2.5. セッションの問題

### 2.5.1. IPv6 を使用する場合にセッションアクセスが非常に遅い (Oracle Solaris 11)

Solaris 11 を実行している Sun Ray サーバーを IPv6 を有効にして使用する場合、Sun Ray セッションが非常に遅くなります。

回避方法: デスクトップクライアントで、MTU を 1280 に下げます。

参照: CR 14774245

## 2.6. ログインの問題

### 2.6.1. タブレットの回転後、ログイングリタが中央に配置されない

タブレットで実行されている Oracle Virtual Desktop Client で動的なセッションサイズ変更が有効になっている場合、タブレット回転後に GNOME ログイングリタまたは NSCM ログイングリタが中央に配置されません。

参照: CR 15872787 および 15872764

### 2.6.2. クイックログインメニューが NSCM ログイングリタで動作しない (Oracle Solaris 11)

Oracle Solaris 11 を使用する場合、NSCM ログイングリタで「オプション」>「クイックログイン」メニューが動作しません。

参照: CR 14703949

### 2.6.3. dtlogin 画面で「リストからホストを選択」オプションからリモートホスト名を選択すると、Sun Ray クライアントが 26D でハングアップする

dtlogin ウィンドウからリモートシステムにログインしようとするときに、「オプション」->「リモートログイン」->「リストからホストを選択」オプションからリモートホスト名を選択すると、クライアントが 26D でハングアップします。

回避方法: リモートホスト名をリストから選択する代わりに、「エラーホスト名」オプションを使用してリモートホスト名を入力します。

参照: CR 12310031

## 2.7. 画面の問題

### 2.7.1. モニターが DVI-2 に接続されているときに、Sun Ray セッションが デフォルト表示である 640 x 480 を使用する

Sun Ray 2FS クライアントまたは Sun Ray 3 Plus クライアントでモニターが DVI-2 に接続されていて、DVI-1 に接続されているモニターがない場合、Sun Ray セッションはデフォルト表示である 640 x 480 を使用します。

回避方法: Sun Ray 2FS クライアントまたは Sun Ray 3 Plus クライアントにモニターを 1 台だけ接続する場合は、DVI-1 ポートに接続します。

参照: CR 16310166

### 2.7.2. 動的なセッションサイズ変更が有効になっているときにホットデスク後 GNOME がクラッシュする可能性がある (Oracle Linux 5)

動的なセッションサイズ変更が有効になっているときに Oracle Linux 5 デスクトップをホットデスクすると、GNOME がクラッシュする場合があります。GNOME がクラッシュした場合、すべてのウィンドウが終了し、新しいセッションが作成されます。この問題はキオスクモード使用時のデスクトップサイズ変更には影響しません。

回避方法: 動的なセッションサイズ変更を無効にします。

参照: CR 13424198

### 2.7.3. Sun Ray 3 および Sun Ray 3i クライアントで構成 GUI を表示しているときに画面がちらつく

Sun Ray 3 または Sun Ray 3i クライアントが最大解像度 (1920x1200 または 1920x1080) のときに STOP-M で構成 GUI を表示すると、画面がちらつく場合があります。

参照: CR 13702574

### 2.7.4. 2 つ目の Oracle Linux セッションで画面がロックしない

2 つの Oracle Linux セッションを作成するユーザーは、2 つ目のセッションの画面ロックを作成できません。Sun Ray Software が画面をロックする必要がある場合、2 つ目のセッションには `xlock` を使用します。ユーザーがメニューから画面をロックしようとしても何も起こりません。

回避方法: 2 つ目のセッションには `screensaver` デーモンを手動で起動することで、画面ロックが有効になり、Sun Ray Software が `xlock` を使用しなくなります。

```
# /usr/X11R6/bin/xscreensaver -nosplash &
```

## 2.8. マルチメディアの問題

### 2.8.1. H.264 ビデオを再生中の Windows Media Player を閉じると、Windows セッションがクラッシュする可能性がある (Oracle Solaris)

この問題は、Sun Ray 2 シリーズクライアントまたは Sun Ray 3 シリーズクライアント、Windows Server 2003 R2、および Oracle Solaris を実行している Sun Ray サーバーに限定されます。Sun Ray 2 シリーズクライアントでは、Windows Media Player を閉じるときにクライアントがリセットされる場合もあります。

回避方法: Windows Media Player を閉じる前にビデオの再生を停止します。この回避方法は初回試行においてのみ機能する場合があります。



参照: CR 14309965

## 2.8.2. Windows Media Player でビデオを再生しているときにデスクトップをリフレッシュすると、Windows デスクトップ背景が黒くなる場合がある

この問題は、Sun Ray 3 Plus クライアントでビデオ高速化を使用しているときに発生することがあります。

回避方法: デスクトップで右クリックして「リフレッシュ」を選択することで、もう一度デスクトップをリフレッシュします。

参照: CR 13081974

## 2.8.3. ビデオサイズを小さくすると、以前に設定した大きなビデオサイズのイメージ内でビデオ再生が開始される

参照: CR 12300252

## 2.8.4. RealPlayer レンダリング (Oracle Solaris)

RealPlayer で XVideo を使用してビデオクリップを再生しているときに Sun Ray クライアントをリセット (Ctrl-Power) すると、RealPlayer アプリケーションが長時間レンダリングに失敗する場合があります。

回避方法: 「一時停止」のあとで「再生」をクリックして、ビデオクリップの再生を再開します。

参照: CR 12249128

## 2.8.5. 2 つの画面から 1 つの画面にホットデスクするときのビデオイメージの問題

ユーザーが 2 画面の Sun Ray 2FS クライアントから Sun Ray 2 または Sun Ray 270 クライアントに Sun Ray セッションをホットデスクするとき、`uttsc` またはビデオウィンドウがデスクトップの左端境界近くでない状態でビデオを拡大すると、ビデオイメージの問題が発生することがあります。

回避方法:

- ビデオをデスクトップ左端境界近くに維持します。
- ビデオイメージサイズを 100 % に設定するアプリケーションメニューまたはコマンドキーを使用することで、サイズを変更しないようにします。

参照: CR 12248506

## 2.8.6. XVideo を使用した縮小

このリリースでは、XVideo を使用したビデオプレイバックは縮小をサポートしていません。

参照: CR 12247940

## 2.8.7. VC-1 (WMV9) ビデオを Windows Media Player ではじめて再生しようとする と、再生されない場合がある

回避方法: ビデオクリップを再起動します。

参照: CR 12237505

## 2.8.8. RealPlayer で最大化した XVideo のプレイバックが遅い

ビデオを拡大サイズ (RealPlayer 最大化モード) で再生すると、ユーザーの X セッションの (特にメニューリクエストへの) 応答が非常に遅くなります。

参照: CR 12220430



## 2.9. キーボードの問題

### 2.9.1. `xset led` が有効になっているとき、キーボードのプラス "+" 記号が動作しない (Oracle Solaris 11)

回避方法 次のコマンドを使用して、キーボード上の LED を無効にします。

```
xset -led
```

参照: CR 16191463

### 2.9.2. NumLock がオンになっているとき、Shift-Props および Shift-Pause ホットキーが動作しない (Oracle Solaris 11 および Oracle Linux 6)

Oracle Solaris 11 および Oracle Linux 6 では、NumLock がオンになっているとき、Shift-Props ホットキーによって `utsettings` GUI が開きません。Oracle Solaris 11 では、NumLock がオンになっているとき、Shift-Pause ホットキーによって Sun Ray クライアントが切り離されません。

回避方法: NumLock をオフにするか、コマンド行から `utsettings` GUI を起動します。

```
/opt/SUNWut/bin/utsettings
```

参照: CR 13645049

### 2.9.3. XKB (Oracle Linux)

XKB 機能を有効にしたあとに次のメッセージが表示されますが、機能は予期したとおりに動作します。

```
Error activating XKB configuration.  
Probably internal X server problem.
```

### 2.9.4. テンキーマッピング (Oracle Linux)

テンキーマッピングは、`utsettings`、`utmhconfig`、登録 GUI などの Java ベース Sun Ray Software コマンドでは正しく機能しません。

回避方法: 次のように、環境変数 `_AWT_USE_TYPE4_PATCH` を `false` に設定します。

```
# setenv _AWT_USE_TYPE4_PATCH false
```

### 2.9.5. キーボードの配列 (Oracle Linux)

`setxkbmap` は、Sun Ray クライアントでのキーボードの配列を設定するために使用できません。

## 2.10. キオスクの問題

### 2.10.1. キオスクアプリケーションタイプを正しく設定する

一部のキオスクセッションタイプでは追加アプリケーションを起動できます。管理 GUI 内で、実行可能ファイルへのパスを入力するか、アプリケーション記述子 (アプリケーションのさまざまなプロパティを一覧表示するファイル) へのパスを指定することで、新しいキオスクアプリケーションを指定できます。

管理 GUI はタイプ (実行可能ファイルまたは記述子) を自動的に判別できないため、新しいアプリケーションを追加するときは管理 GUI でタイプを正しく指定する必要があります。

間違ったタイプを指定すると、キオスクセッションが正しく起動できず、影響されるクライアントがハングアップします (通常は 26D エラー)。

回避方法: 管理 GUI で指定済みタイプを確認し、必要に応じて設定を修正します。

参照: CR 12195273

## 2.11. 外部ストレージの問題

### 2.11.1. Memorex TravelDrive 1G バイト が Sun Ray 2FS クライアント上で動作しない

Memorex TravelDrive 1G バイトフラッシュディスクは、Sun Ray 2FS クライアントに直接接続されると動作しません。

回避方法: フラッシュディスクを Oracle ベースキーボードの USB ポートなどの外部ハブに接続します。

参照: CR 12271355、12256277

## 2.12. Oracle Solaris Trusted Extensions の問題

### 2.12.1. ActivClient ユーティリティーを起動したあと、Windows Connector が X\_WarpPointer エラーで終了する (Oracle Solaris 11)

終了時、次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
X Error of failed request: BadWindow (invalid Window parameter)
Major opcode of failed request: 41 (X_WarpPointer)
Resource id in failed request: 0x2000024
Serial number of failed request: 11334
Current serial number in output stream: 11334
```

回避方法はありません。

参照: CR 16424577

### 2.12.2. admin\_high/admin\_low 許可のないユーザーがログインに失敗する (Oracle Solaris 11)

ログインしようとする時、「アクセス権が拒否されました」エラーメッセージが表示されます。

回避方法: `/etc/pam.d/gdm`, `/etc/pam.d/utnsclogin` および `/etc/pam.d/uthotdesk` ファイルから次の行を削除します。

```
account required pam_tsol_account.so.1 allow_unlabeled
```

参照: CR 16416236

### 2.12.3. Sun Ray インターコネクト構成

`/etc/security/tsol/tnrhdb` で、次のエントリを利用可能にするようにしてください。

```
0.0.0.0/32:admin_low
```

参照: CR 12247254

### 2.12.4. マルチヘッド役割引き受け

マルチヘッド Trusted JDS セッションでは、`utmhscreen` が削除されるまで役割引き受けが機能しません。

参照: CR 12240048

### 2.12.5. フラッシュディスク割り当て

UFS ファイルシステムのフラッシュディスクを 2 回目に割り当てることは機能しません。

回避方法: デバイスをホットプラグします。

参照: CR 12202377

## 2.12.6. 複数のスライス/パーティション

Sun Ray 外部ストレージは、Trusted Extensions デバイス割り当てフレームワークが使用するスライスまたはパーティションを 1 つだけ処理します。

参照: CR 12195719

## 2.12.7. xscreensaver リンク (Oracle Solaris 10)

`xscreensaver` が正しく機能できるように、次のリンクが作成されていることを確認してください。

```
# ln -s /usr/openwin/bin/xscreensaver /usr/bin/xscreensaver
# ln -s /usr/openwin/bin/xscreensaver-command /usr/bin/xscreensaver-command
# ln -s /usr/openwin/bin/xscreensaver-demo /usr/bin/xscreensaver-demo
```

## 2.13. ローカリゼーションの問題

### 2.13.1. ポルトガル語のロケールがインストールされない (Oracle Solaris 10 および Oracle Linux)

Oracle Solaris 10 および Oracle Linux プラットフォームで、Sun Ray Software インストールプログラムが `SUNWpkio` (ポルトガル語のローカライズ) パッケージをインストールしません。

回避方法: メディアバックイメージで提供されているパッケージを手動でインストールします。

- Solaris 10 x86 - [Components/10-SRSS/Content/Kiosk\\_Mode\\_4.5/Solaris\\_10+/i386/Packages/SUNWpkio](#)
- Solaris 10 SPARC - [Components/10-SRSS/Content/Kiosk\\_Mode\\_4.5/Solaris\\_10+/sparc/Packages/SUNWpkio](#)
- Oracle Linux - [Components/10-SRSS/Content/Kiosk\\_Mode\\_4.5/Linux/Packages/SUNWpkio-4.5-\\*.rpm](#)

参照: CR 16034057

### 2.13.2. nl\_NL オランダ語ロケールサポートがデフォルトで提供されない (Oracle Solaris 11)

ログイン GUI および `utselect` コマンドなど、一部の Sun Ray Software GUI アプリケーションはロケールサポートを必要とします。nl\_NL オランダ語ロケールサポートが Oracle Solaris 11 でデフォルトでインストールされず、必要に応じてインストールする必要があります。

回避方法: 次のコマンドを使用して、Sun Ray サーバーで nl\_NL オランダ語ロケールをインストールします。

```
# pkg change-facet 'facet.locale.nl=true' 'facet.locale.nl_NL=true'
```

参照: CR 14703414

### 2.13.3. utselect GUI でローカライズされたテキストが正しく表示されない (Oracle Solaris 11)

Oracle Solaris 11 で一部の CDE ベースのアプリケーションによって使用される `sys.resources` をロードするためのメカニズムがありません。

回避方法: アプリケーションを開始する前に、適切なロケールの `sys.resources` ファイルをロードします。

```
% xrdm -merge /usr/dt/config/locale/sys.resources
```

参照: CR 14703466

## 2.13.4. utselect および utwall (Oracle Linux)

簡体字中国語、繁体字中国語、および韓国語ロケールでは、Oracle Linux デイストリビューションで **utselect** および **utwall** が正しく機能しません。

回避方法: 該当するロケールサブディレクトリから **utselect** および **utwall** カタログファイルを削除します。これにより、**utselect** および **utwall** が英語で起動します。

簡体字中国語ロケールの場合:

```
# rm /opt/SUNWut/lib/locale/zh_CN/LC_MESSAGES/utselect.mo
# rm /opt/SUNWut/lib/locale/zh_CN/LC_MESSAGES/utwall.mo
# rm /opt/SUNWut/lib/locale/zh_CN.utf8/LC_MESSAGES/utselect.mo
# rm /opt/SUNWut/lib/locale/zh_CN.utf8/LC_MESSAGES/utwall.mo
```

繁体字中国語ロケールの場合:

```
# rm /opt/SUNWut/lib/locale/zh_TW/LC_MESSAGES/utselect.mo
# rm /opt/SUNWut/lib/locale/zh_TW/LC_MESSAGES/utwall.mo
```

韓国語ロケールの場合:

```
# rm /opt/SUNWut/lib/locale/ko_KR.utf8/LC_MESSAGES/utselect.mo
# rm /opt/SUNWut/lib/locale/ko_KR.utf8/LC_MESSAGES/utwall.mo
```

## 2.14. VMware View Connector の問題

### 2.14.1. ネットワークレベル認証 (NLA) を使用して Windows 7 を起動すると VDM ログイン画面で認証に失敗する

Sun Ray Software は Windows ネットワークレベル認証 (NLA) をサポートできますが、VMware View は Windows ベースでない View クライアントで NLA をサポートしていません。VMware View では標準の RDP 認証を使用する必要があります。

回避方法: RDP 認証を構成するには、ゲスト OS で RDP 認証を有効にし、SRS 管理 GUI の「キオスクモード」タブの **uttsc** 引数フィールドに **-N off** オプションを追加してください。

## 2.15. スマートカードの問題

### 2.15.1. Sun Ray Operating Software のインストール時にスマートカード LED が約 40 秒間点滅する

Sun Ray 3 シリーズクライアントに Sun Ray Operating Software をインストールするときは、スマートカードコントロールファームウェアの更新中にスマートカード LED が約 40 秒間点滅します。

これは正常です。

## 2.16. Windows Connector の問題

### 2.16.1. ホットデスク中に Windows Server 2003 R2 デスクトップが自動的にサイズ変更されるとセグメント例外が発生する

この問題は、**uttsc** コマンドの **-f** オプションを使用しているときに発生する場合があります。

回避方法: 次の手順を使用します。

1. 次のホットフィックスを Windows Server 2003 R2 システムにインストールします。

<http://support.microsoft.com/kb/942610>

2. **regedit** コマンドを使用して、**AllowHigherColorDepth** レジストリキーが 1 に設定されていることを確認します。0 に設定されている場合は、1 に変更します。

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\TerminalServer\AllowHigherColorDepth



#### 注意

レジストリキーを変更する前に、Windows システムのレジストリを必ずバックアップしてください。

参照: CR 13402062

## 2.16.2. USB リダイレクション機能のトラブルシューティングに使用される **uttrace** コマンドが機能しない

参照: CR 13086346

## 2.16.3. Windows 7 および Windows Server 2008 R2 システムへの接続時に、Windows Connector が Windows 開始画面でハングアップする場合がある

このハングアップは、サーバーと Windows Connector との間で発生するマルチモニター列挙プロセスが原因で、Windows サーバーが Windows Connector にモニター配置データを送信しないことによります。

回避方法: **uttsc -X off** コマンドを使用してマルチモニター列挙プロセスを無効にするか、デスクトップのカスタムテキストサイズ (DPI) を 100% に設定します。

参照: CR 12304470

## 2.16.4. Windows 7 でテーマが有効になっているときに色勾配が正しく表示されない

**uttsc** コマンドの **-E theming** オプションでテーマが有効になっているときに、メニューの背景色などの色勾配が正しく表示されません。色勾配が滑らかな変化ではなく細長い帯状に見えます。

回避方法: **-E theming** オプションでテーマを有効にしないでください。

参照: CR 12301115

## 2.16.5. XRender が無効のときに Windows Server 2008 R2 セッションで黒いマウスカーソルが表示される

クライアント上で Xrender 拡張機能が無効になっている場合、Windows Server 2008 R2 セッションで白いマウスカーソルの代わりに黒いマウスカーソルが表示されます。

回避方法: 管理ガイドの「**XRender を有効または無効にする方法**」を参照してください。

参照: CR 12293338

## 2.16.6. スキャナボタンを使用してもスキャンが動作しない

一部のスキャナで、スキャナのボタンによりスキャンの開始が機能しません。ソフトウェアからスキャンを開始することでドキュメントをスキャンすることはできます。

参照: CR 12279842

## 2.16.7. フラッシュディスクの挿入後にエクスプローラウィンドウが自動的に起動しない

フラッシュディスクを挿入したあとにエクスプローラウィンドウ (ディスク内容) が自動的に起動しません。プログラムは手動で起動する必要があります。これは、コンソールセッションの Windows 動作とは異なる動作です。

参照: CR 12270188

## 2.16.8. スマートカードが Windows ターミナルサーバーでユーザーを認証できない

スマートカードを使用して Windows ターミナルサーバーでユーザーを認証するには、Base Smart Card Cryptographic Service Provider パッケージ更新を <http://support.microsoft.com/kb/909520/en-us> からインストールしてください。

この更新は Sun Ray 環境での画面ロック解除動作を改善します。

## 2.16.9. 既知の Oracle Linux 制限が原因で、Windows から PCFS フォーマットリムーバブルメディアに大きなファイルをコピーすることが機能しない

回避方法: UFS や ext3 など、PCFS でないほかのファイルシステムを使用してください。

---

## 第3章 フィードバックとサポート

### 目次

3.1. 問題を報告してフィードバックを提供する .....	17
3.2. Oracle スペシャリストサポートに連絡する .....	17

この章では、Sun Ray Software 製品のフィードバックを提供する方法とサポートへの連絡方法について説明します。

### 3.1. 問題を報告してフィードバックを提供する

フィードバックを提供したり、一般的な質問を送ったりするには、Oracle VDI と Sun Ray ソフトウェアに関するコミュニティフォーラムの[仮想デスクトップ基盤と Sun Ray クライアントに関する全般的なディスカッション](#)に投稿してください。フォーラムはコミュニティによって監視されており、Oracle VDI と Sun Ray ソフトウェアに関するコミュニティフォーラムに投稿しても Oracle から回答が得られる保証はありません。問題を報告する必要があり、かつ Oracle Premier Support Agreement をお持ちの場合は、Oracle Support (<https://support.oracle.com>) でケースを登録してください。

問題を報告する場合は、次の情報 (該当するもの) をお送りください。

- 問題の説明。問題発生時の状況や操作への影響を含みます。
- マシンタイプ、オペレーティングシステムのバージョン、ブラウザの種類とバージョン、ロケール、および製品のバージョン、適用したパッチや、この問題に影響している可能性のあるほかのソフトウェアを含みます。
- 使用した方法の詳細な手順 (問題を再現するため)。
- エラーログまたはコアダンプ。

### 3.2. Oracle スペシャリストサポートに連絡する

Oracle Customer Support Identifier (CSI) をお持ちの場合は、最初に <https://support.oracle.com> の My Oracle Support を使用して問題の解決を試みてください。Oracle Premier Support CSI は、カスタマイズサポート、サードパーティーソフトウェアサポート、またはサードパーティーハードウェアのサポートに対応していません。

問題を解決できない場合は、Oracle スペシャリストサポートチームに問題を相談し、製品の問題の切り分け/修正に関する技術的な支援を受けます。対応するサポート技術者には、まず次の情報が必要です。

- Oracle Customer Support Identifier。
- 問い合わせしている製品。

Sun Ray Operating Software の場合は、製品の Sun Ray HW およびコンポーネントのファームウェアを伝えてください。

- 支援を必要とする問題の簡単な説明。

CSI が不明な場合は、該当する国の適切なサービスセンターを見つけてから (<http://www.oracle.com/us/support/contact-068555.html>)、Oracle サービスに連絡して非技術サービス要求 (SR) を開いて CSI を発行してもらってください。CSI がわかったら、My Oracle Support でケースを登録する手続きに進むことができます。

利用可能な Sun Ray 製品のサポートは次のとおりです。

- Sun Ray Software (SW) のサポートが必要な場合は、Sun Ray Software をアセットとする Oracle Premier Support for Software (SPS) 契約が必要です。
- Sun Ray ハードウェア (HW) サポートが必要な場合は、Sun Ray クライアント、キーボード、マウス、およびモニターの部品交換のための Hardware Warranty (HWW) または Premier Support for Systems (PSS) 契約が必要です。

- Sun Ray Operating Software サポートが必要な場合は、Sun Ray をアセットとする Premier Support for Systems (PSS) または Premier Support for Operating Systems (PSoS) 契約が必要です。



# 付録A 変更ログ

## 目次

A.1. Sun Ray Software 5.4 のバグ修正 .....	19
A.2. Sun Ray Operating Software 11.1.1 のバグ修正 .....	21

このセクションでは、Sun Ray Software 5.4 および Sun Ray Operating Software 11.1.1 リリースで修正されたバグについて説明します。

## A.1. Sun Ray Software 5.4 のバグ修正

次の表に、Sun Ray Software 5.4 で修正されたバグを示します。

表A.1 Sun Ray Software 5.4 で修正されたバグ

バグ ID	説明
11958563	キーボードの音量が最大でオーディオコントロールの音量がミュートの場合、サウンドがミュートにならない
12079615	オーディオミキサー機能を要望
12115063	非ルートユーザーからの utdevadm -e/-d -s all コアダンプ
12194648	プライマリ/セカンダリで自己登録 gui/dtlogin/nscm を表示する
12267236	linux への sunwpcsc および sunwpcscdtu パッケージ移植
12285015	pc/sc-lite 1.2 の oracle enterprise linux (oel) への移植
12288379	ld_preload=/.../libc_ut.so によって firefox 3.6 が redhat linux でハングする
12302123	utxinit セッションタイプからのエラーが静かに破棄される
12303819	xrandr に対する任意の出力モード作成
12307565	実行時に java バスは適切なメッセージとともに表示される必要がある
12309163	linux 用の sun ray software での alsa のサポート
12309716	youtube 再生中に、uttsc がセグメント違反で終了することがある
12691789	srs 5.2 の xrandr 回転機能でパフォーマンスの問題が発生した
12952773	ol 6.x との srs 統合 - gdm
12991962	oel sun ray セッションでクリップが youtube で開かれているとき、オーディオが聞こえない
13019040	oel および s11 で utlog -o が壊れている
13024820	NumLock がオフのときでも、ポップアップの gui オプションで数字 '5' が正しく選択される
13252094	キオスクモードが新しい gdm で動作しない (solaris 11 または ol 6)
13259344	'editres' が sr3+ モデルで表示を適切にレンダリングしない
13530372	vmware view connector が upn 形式ログインを許可しない
13619885	ユーザーが solaris 11 で大容量ストレージデバイスにアクセスできない
13647621	win2003 で windows タスクマネージャーを最小化するとビデオが空白になる
13656508	gdm-remove-dpy.sh が活動的すぎる
13682960	aoc 22 インチ tft22w90ps モニター上の sun ray 2fs でセッションの作成が失敗する
13718991	vdi/sun ray サーバーが定期的にフリーズする
13720688	excel2002/2003 で excel ファイルを開くときに uttsc がクラッシュする
13773710	youtube のポップアウトウィンドウのサイズ変更が予期したとおりに動作しない
13783976	クリップを win 7 32 ビットで再生中、wmp ビデオレンダリング領域で白い境界が表示される
13789129	-m all オプションで、xvideo 拡張の使用が mpeg ビデオに対して有効にならない

バグ ID	説明
13789529	uttsc-bin が新しいプラットフォームで動作しない
13799682	5.2.5 から 5.3 へのアップグレード後に utadm/dhcp 構成が壊れる
13810301	webgui での "トークンを検出できません - 内部エラーが発生しました"
13814236	無効なオプションが指定された場合、utdevadm -s はエラーメッセージを表示するべきである
13826717	osd アイコン生成メカニズムのクリーンアップ
13867551	xd 5.5 srxc 割り当てのデスクトップのプロローカが解除され、2 分で使用可能になる
13875446	utpkgcheck が rhel で動作しない
13891563	画面番号が範囲内がない場合、utscreenresize o/p メッセージが更新を必要とする
13892068	windows xp で wmp ビデオウィンドウが全画面モードで黒色になった
13902687	ビデオ再生が ovdc で動作しなくなる
13902831	無効なオプションを付けて 'utreplica' を実行すると、レプリカ構成が進む
13981862	ol 6.x - utpkgcheck の問題
13981967	ol 6.x で /usr/bin/ksh がない
13982213	ol 6.x で sunwuttsd インストールが失敗する
14010295	mpeg ストリームを wmp とともに再生中に停止をクリックすると ovdc がクラッシュする
14058622	srs インストーラが downrev sros を誤って報告する
14077089	ol6.x と srs 5.3 で、メッセージが /var/opt/sunwut/log/messages に記録されない
14081954	更新で誤ったファームウェアパッケージが配信されている
14095763	-r scard:on および oberthur のミドルウェアを使用する場合に uttsc がクラッシュする
14099346	scbus v2 ifd ハンドラが別の libutsc イベントと調整する必要がある
14106819	srs web gui は、キオスクセッションの終了に対して 0 秒のタイムアウトを許可しない
14151988	リモート windows ホストからのファイルのコピーが -r disk オプションで動作しない
14156744	ホストを削除する utreplica によって構成が壊れる場合がある (fqdn 対ホスト名)
14172976	srs 5.2.5 から srs 5.3.1 へのアップグレードで "ldap_simple_bind:" エラーメッセージが表示される
14188007	sun ray プラグインを enterprise manager に追加して、em コンソール経由での監視を可能にする
14241936	サイズが混在するモニターがマルチヘッドで正しく動作しない
14338206	ウィンドウでテーマとフォントスムージングが使用されている場合、メニュー項目がちらつく
14394366	srs 5.0 で sun ray 3plus dtu の画質の悪いカーソルグラフィックが表示される
14468590	oracle rdp を使用する場合、sun ray 場所の IP アドレスを渡す必要がある
14481283	dtu の電源オフ後、セッションがクリーンアップされる前にデスクトップコンテンツがわずかに表示される
14494505	utaudio プロセスが linux 64 ビットサーバーで cpu を大量に消費する
14593824	セカンダリユニットへの altdisp コントロールの送信を有効にする必要がある
14595464	新しいタイミングが却下される場合、utset が元のモニタータイミングを復元しない
14595490	webadmin での l10n の問題を修正
14600026	nscm 無効ユーザーでログインすると、utauthd がクラッシュする
14600066	srss mhconfig および scloggingui での l10n/t13y の問題を修正
14600222	srss java プロパティーでの l10n/t13y の問題を修正
14690054	外部 usb スマートカードリダイレクションが usb リダイレクションによって壊れる
14779351	isabel ミドルウェアがスマートカード挿入ポップアップウィンドウを表示しない

バグ ID	説明
14784715	韓国語のキーボードで caps lock をオンにするとナビゲーションキーが動作しない
14811448	致命的エラー: デフォルトフォント 'fixed' を開くことができませんでした
15988789	要求されたデバイスがデバイスマネージャクライアントに通知される
16063985	インストーラがプラットフォームに対してイメージを検証しない
16079860	VDI/Sun Ray サーバーが定期的にフリーズし、修正するにはリブートが必要になる

## A.2. Sun Ray Operating Software 11.1.1 のバグ修正

次の表に、Sun Ray Operating Software 11.1.1 で修正されたバグを示します。

表A.2 Sun Ray Operating Software 11.1.1 で修正されたバグ

バグ ID	説明
13339991	プリンタの電源が再投入されると、プリンタが「プリンターと FAX」の下でクローニングされる
13781046	sun ray クライアントが ipv6 経由では一時停止 (フリーズ) しようとするが、ipv4 または ovdc では発生しない
14093227	sun ray 3 ディスプレイがちらつくことがある
14232913	sun ray 3plus 組み込みのオーディオ再生でのクリック音
14503766	sun ray 3 plus でカーソル形状の設定を最適化する必要がある
14541062	sr3 plus に対するさらなるカーソルの最適化
15973664	sun ray クライアントで 802.1x 認証が 20h reason=1 depth=4 で失敗する



## 付録B Sun Ray Operating Software 11.1.1 リリース

最新のすべての Sun Ray Software 機能を活用し、最適なユーザーエクスペリエンスを実現するには、常に Sun Ray クライアントに最新の Sun Ray Operating Software をインストールしてください。最新の Sun Ray Operating Software をインストールすることは、Sun Ray Software または Sun Ray クライアントのサポート問題を解決するための初期要件の 1 つでもあります。

Sun Ray クライアントの Sun Ray Operating Software 11.1.1 リリースは、新しい Sun Ray Software 5.4 機能の多くに必要です。

- Windows 7 および Windows Server 2008 R2 でのビデオプレイバックが改善

Sun Ray 3 シリーズクライアントでは、Windows 7 および Windows Server 2008 R2 デスクトップを使用する場合の Windows Media Player を使用したビデオプレイバックが改善されています。改善には、MPEG-2、H.264、および VC-1 ビデオ形式での最大 720p ビデオのサポートが含まれます。詳細については、管理ガイドの[ビデオの高速化](#)を参照してください。

- 動的なセッションサイズ変更

セッションの動的サイズ変更を使用すると、ローカルのデスクトップクライアントセッションのサイズに合わせてリモートデスクトップのサイズを自動的に変更できます。セッションの存続期間中の動的なセッションサイズ変更をより適切に実現するために、`utscreensize` コマンドの `-l` オプションが追加されました。動的なセッションサイズ変更は Oracle Virtual Desktop Client でも拡張されており、ウィンドウモード中にタブレットを回転したりウィンドウをサイズ変更したりしたあとで、新しい画面構成を自動的に検出し、それに従ってリモートデスクトップをサイズ変更します。詳細については、管理ガイドの[セッションの動的サイズ変更](#)を参照してください。

- Sun Ray クライアントの画面回転

Sun Ray クライアントのファームウェアを、モニターの方向（たとえば、縦か横か）を指定するように構成できるようになりました。この方向の構成は、さまざまな画面構成コマンドによって使用され、適切な画面方向をユーザーに自動的に提供するのに役立ちます。詳細については、[画面の回転を構成する方法](#)を参照してください。

- モニターモードの正確な一覧表示

`xrandr` コマンドを使用してモニター情報を表示する場合、モニターでサポートされているサイズのみが表示され、マルチヘッドグループ内のセカンダリヘッドに関する情報は正確です。

- 特定のタッチ画面ディスプレイが現在 Sun Ray 3 クライアントおよび Sun Ray 3 Plus クライアントで動作する

互換性のあるタッチ画面ディスプレイのリストとそれらを使用するための特定の要件については、[Sun Ray クライアントおよび Oracle Virtual Desktop Client の周辺機器に関するドキュメント](#)を参照してください。

- IPsec によりネットワークセキュリティーが改善

Sun Ray クライアントと Sun Ray サーバーとの間の IPv4 トラフィックセキュリティーを改善するために、IPsec が提供されるようになりました。詳細については、管理ガイドの[IPsec サポート](#)を参照してください。

既存および新規の Sun Ray クライアントのファームウェアが古い場合は、新機能を取得するにはこの新しいファームウェアリリースで更新する必要があります。



### 注記

Sun Ray Operating Software は、Sun Ray Software 5.3 以降を実行している Sun Ray サーバーにインストールする必要があります。Sun Ray オペレーティングソフトウェアを 5.3 よりも前の Sun Ray Software リリースにインストールしようとする、競合が発生します。それらのリリースでは Sun Ray クライアントファームウェアがすでにインストールされ、提供されているためです。

Sun Ray オペレーティングソフトウェアを 5.3 よりも前の Sun Ray Software リリースにインストールしようとする、エラーメッセージ「エラー: 不明なファームウェアモジュールタイプ」が表示される場合があります。

---

Sun Ray Operating Software を Sun Ray Software 5.4 インストールの一部として Sun Ray クライアントにインストールするときは、管理ガイドの「[Sun Ray Software をインストールするまえにファームウェアをインストールする](#)」を参照してください。

Sun Ray Software インストールプロセスとは別に Sun Ray クライアントの Sun Ray Operating Software を更新するときは、管理ガイドの「[Sun Ray クライアントでファームウェアを更新する方法](#)」を参照してください。

Sun Ray Operating Software についてのサポート関連の質問は、My Oracle Support の「[ナレッジドキュメント 1448410.1](#)」を参照してください。My Oracle Support を使用しても問題を解決できないため、Sun Ray Operating Software のための Oracle サポートケースを登録する必要がある場合は、HW ベース Customer Support Identifier (CSI) を使用して製品の Sun Ray HW およびコンポーネントのファームウェアを指定してください。詳細については、「[Oracle スペシャリストサポートに連絡する](#)」を参照してください。